

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597340037		
法人名	医療法人松栄会		
事業所名	グループホームなでしこ		
所在地	山口県熊毛郡平生町大字平生村895番地		
自己評価作成日	平成27年3月25日	評価結果市町受理日	平成27年10月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年4月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が経営しているグループホームで適切に医療を受けることができる施設です。『いつも笑顔でゆっくりのんびり』を目標に入居者様、ご家族様、職員が穏やかに過ごせるよう職員一同心懸けています。また、月に一回は研修会を他施設と合同で開催したりバレーボール大会など交流も盛んに行っています。老人保健施設との併設で夜勤者以外に夜間当直も配置しているため安心して過ごせる施設です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は法人の栄養士による献立の配食を利用され、一人ひとりの状態に合わせた食の形態にも配慮されて提供しておられます。お正月や敬老会、雛祭り、誕生会、花見弁当などの行事食、おもてなし昼食や月初めのお赤飯など、食事を楽しむことができるように支援をしておられます。協力医療機関からの週1回訪問診療や往診、併設施設の看護師の協力を得られる他、状態に応じて利用者一人ひとりの「夜間・休日指示書」が作成され、緊急時の対応をされているなど、適切な医療が受けられるように支援しておられます。利用者は併設施設での習字教室や音楽教室の参加されたり、法人の夏祭りや映画観賞会、コンサート、文化祭などで来訪されるボランティアや他施設の利用者と交流されるなど、楽しみごとの支援をされています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム内に理念『笑顔でゆっくりのんびり』を掲げて共有している。入居者様が楽しく、職員と一緒に笑顔になるケアを目指すように指導している。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。利用者が笑顔でゆっくり出来るケアを目指し、職員は日々理念を確認して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人として自治会に加入して広報誌を楽しみにしている。地域とのつながりの幅を広げる必要を感じて努力する必要がある。	法人として自治会に加入し、広報誌の配布がある。地域の清掃行事に職員は参加している。利用者は買い物時や町の巡回図書館の利用などで地域の人と交流している他、毎月併設施設で行っている習字教室や音楽教室に参加し、来訪するボランティアと交流している。事業所で行う夏祭りには家族や他施設の利用者の参加があり、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在実施していないが今後実施できるように努力をしたい。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティング等で自己評価の実践状況話し合いした。より一層、職員全員に外部評価の意義を深めるように努力したい。	管理者はミーティングで評価の意義を職員に説明し、項目ごとに職員の意見を聞き、管理者と副主任でまとめている。項目を理解し、評価を活用するまでには至っていない。	・全職員による評価への取り組み ・評価の理解と活用
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催をしている。参加者は、入居者家族、保険者、民生委員、自治会長等で活動内容の報告し意見交換をしている。家族参加人数平均3～4人で会議全体の人数は合計7～8人である。	自治会長、民生委員、利用者家族(3名から4名)、町担当者、運営者、管理者等で、2か月に1回開催している。行事報告、活動報告、事故報告などして、意見交換を行っている。家族より外出支援や家庭菜園などの意見があり、活かしている。議事録は職員で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当とは日頃から出向いたり、電話連絡等で情報交換を積極的に行っている。運営推進会議にも出席をお願いしている。	町担当者とは運営推進会議の他、電話や出向いて事業所の実情や介護保険の更新など、相談して助言を得たり情報交換をして、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム内での身体拘束はしていないが施設が国道の接しており事故の発生の懸念があるため、ユニット入口の電子ロックは解除に至っていない。	管理者及び全ての職員は、研修などで学び、理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ユニット入口の施錠について話し合っているが、開錠には至っていない。利用者と職員が一緒に洗濯物を干しに出たり、職員が付き添って外に出かけるなどしている。	・鍵をかけない工夫の検討
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会を老健と合同で開催した。日頃から言葉使い、態度が虐待につながるかどうか職員同士が注意しあっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、自立支援事業や成年後見制度をつかっている入居者はいないが、勉強の必要性は感じている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前後、解約時も入居者、身元引受人(家族)に1時間以上時間をかけて話を聞き、質問疑問に答えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口を明記、苦情意見箱を設置している。苦情があがった場合、事務長含めて施設全体で解決方法を検討するようにしている。外部に伝える機会を持ちたいと思う。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。苦情意見箱を玄関に設置している。運営推進会議時に、家族より外出支援についての意見があり、ミーティングで話し合い、反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なじみの関係作りを維持するため、法人内の異動は最小限にするように事務長、人事部長に案件を上げている。個人面談等を行っている。	管理者は毎月のミーティングや業務の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員配置や職員増についての意見があり、法人内で検討している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は、現在のところ法人で決められたものにしている。給与で個人の能力査定を反映させている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として年度の研修計画を策定している。併設施設の老人保健施設との合同で『サービス向上勉強会』を実施している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望に応じて、参加の機会を提供している。参加後はミーティングで復命し、資料が閲覧できるようにしている。法人研修は、年間計画に基づく研修と併設施設と合同で「サービス向上勉強会」を実施し、働きながら知識や技術を身につけていくことを支援している。内部研修は、必要時にミーティングで話している。新人研修は、リーダーが1ヶ月位一緒について指導している。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所会議等で入居状況などを伝えているが、今後ネットワーク作りに必要性を感じている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は特に入居者との不安を受けとめて、時間をかけて個別に話をするようにしている。他の入居者との人間関係を良好になるように職員が間に入りコミュニケーションをとるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約、入所する前に居室の雰囲気やグループホーム内の様子などの見学をお勧めしたり、要望について何度も話しをしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に来られた相談者に対して満床ですぐに入所が受け付けられない場合など、他のサービスを紹介することを行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることを一緒に考えて共に生活する姿勢で関係作りを築いている。職業歴を活かして出来ることはして頂いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、出来る限り日頃の様子をお伝えしたり、ご本人、ご家族と一緒に過ごし関係作りの構築に努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に面会を積極的にお願ひし、知人近所の人の面会も受け入れている。	親戚の人、知人、昔の教え子などの来訪がある他、電話やはがき、手紙などの支援をしている。家族の協力を得て、美容院の利用、法事への出席、墓参り、外泊、選挙の投票、敬老会の出席など、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活室(リビング)にソファをおいて思い思いに過ごせるようにしている。仲の良い入居者を相席したり、各々の居室を行き来できるように関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了前に、今後の入所先(方針)に退所サマリーを提出するなど情報提供などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を確認し、できる限り現実できるように関係各所やご家族と情報共有している。電話をしたいなど具体的なないようがあれば実施している。	入居時のアセスメントの活用や日常の行動や言動から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。職員は申し送り時やミーティングで共有し、困難な場合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の申し込み時に入居間もない時期に生活歴、サービスに至った経緯など情報収集に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居に至るまで事前に自宅を訪問し生活状況、長谷川式スケール、NMスケールなどで認知症度、身体状況の情報収集に努めている。24時間シートでグループホームでの生活を把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の要望を計画書を作成する段階できいている。状態変化があった場合の計画の見直しについて迅速にする必要性を感じている。	毎月のミーティングでカンファレンスを行い、本人、家族、主治医、必要な関係者の意見を参考にして、管理者と主任、職員で話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。状態に変化が生じた時は、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの様子を24時間のケアチェックに詳細に記録している。ミーティング、日々の引き継ぎで情報共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制加算を活かして、入院せずに食事が一時摂れない入居者に対して点滴するなどしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の図書館から本人、紙芝居を借りて活用している。消防署に救命救急の講習依頼をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に希望の病院を確認してかかりつけ医を継続受診、協力病院を主治医にする場合と各々希望通りに支援している。専門医、眼科などにも受診支援している。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、事業所との関係を築きながら、受診の支援をしている。協力医療機関から週1回の訪問診療がある他、往診や利用者の状況に応じて歯科訪問診療、家族の協力を得ての他科受診の支援をしている。併設施設の看護師の協力がある他、利用者個々にかかりつけ医による「夜間・休日指示書」が作成され、緊急時の対応をしているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常時変化(急変)があった場合、報告し受診の相談を行っている。主治医から点滴などの指示があった場合は協力依頼をしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に退院後の調整を早期に行っている。入院中の様子を担当看護師や病院の連携室を通して確認し、退院後の支援にいかしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化の指針について充分説明している。状態が変化した場合に家族の希望を聞きながら主治医、家族、施設職員と話し合いをして方向性を決めて支援している。	契約時に「重度化・終末期ケア対応指針」について家族に説明している。重度化した場合は早い段階から主治医、本人、家族、関係者で話し合い、移設を含めて方針を共有して、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時には、事故報告書を作成している。今後の方針、対策を明記してしたり、ミーティングなどで話し合いを重ねている。緊急時の対応(応急処置)を含めて研修会を老人保健施設と合同で実施している。	事故報告書を作成し、その日の職員で対応策について話し合い、ミーティングで対応策を検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。転倒、誤薬、意識不明など急変や初期対応など併設施設と合同で研修会を定期的に行い、法人の研修会でも事故発生時の取り組みなどについて学び、実践力を深めるように取り組んでいる。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練、通報訓練、消火器訓練を全職員が行っている。運営推進会議等で民生委員、自治会長に協力をお願いしているが合同練習には至っていない。	年2回、併設施設と合同で、避難訓練、通報訓練、消火訓練を利用者と一緒に行っている。運営推進会議で民生委員や自治会長に協力を依頼しているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事念頭に置き、日常会話も敬語を使うことや、苗字で呼ぶに配慮している。排泄時の声かけは小声で話すようにしている。	人格の尊重やプライバシーについて法人研修で学び、職員は理解して、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる対応があった時は管理者や主任が注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	発語が出にくい入居者でもサインで表現されることもあり、コミュニケーションをとっている。そばに座ってゆっくり話し思いを聞くようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定は決めずに入居者様のペースで過ごせる本人の意向に任せている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、化粧したり、スカーフを巻くなど各々に合ったおしゃれを楽しまれている。自分で服が選べる方は極力自分で食べて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力と意向に合わせて厨房に食事を取りに行ったり、ご飯や汁の盛り付けをして頂いている。	法人の配食を利用している。利用者は職員と一緒に配食を取りに行き、ご飯や汁物など盛り付けをしたり、配膳や後片付けをしている。利用者と職員は会話をしながら一緒に食事をしている。毎月、赤飯やおもてなし昼食、花見弁当、お寿司(誕生会)、敬老会祝い食、おせち料理などの行事食を取り入れ、おやつづくりや、たこ焼き、お好み焼きを作っているなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が一日約1600カロリーの献立をたてている。摂取能力に応じて主食は、ご飯お粥ミキサー副食は常菜、刻み、極刻み、ミキサー食とかえている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをして必要時応じて口腔ケアを行っている。希望者には、歯科往診を実施している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを確認して一人でトイレにいけない方は誘導している。トイレは各居室に設置しているため、羞恥心などには配慮している。	一人ひとりの排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員水分量のチェックして、便秘気味な入居者は牛乳などの乳製品を多めに摂っていただくようにしている。必要時に応じて医師に相談して整腸剤や下剤を使用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個浴で希望に応じて入浴している。極力同性介助するように配慮している。時間は朝9時～15時ごろまでの時間に入浴している。	入浴は毎日9時から15時の間可能で、一人ひとりの希望に合わせて、週3回は入浴できるように支援している。個々に応じた足浴や清拭、法人の併設施設の特殊浴槽も利用できるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムで睡眠や休息をとって頂いている。夜眠れないと理由で昼間のお昼寝の時間を制限はしていない。夜眠れない入居者様は、主治医に相談して必要最低限の睡眠導入剤を使用している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容は各カルテに毎回記入して職員が共通で確認できるようにしている。毎週往診時に医師に状態を報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性で家事手伝いが得意な人には食事時の配膳、下膳、ご飯の盛り付けをして頂いている。また、トランプ、テレビ体操、塗り絵、カラオケなどを準備してそれぞれ好みの楽しみごとをしていただいている。	習字、トランプ、テレビ体操、風船バレー、言葉遊び、将棋、紙芝居、DVDやテレビ視聴、新聞の購読、雑誌を読む、日記を書く、カラオケ、食器を洗う、下膳、ご飯の盛り付け、洗濯物たたみ、掃除、草取り、抹茶をたてる、家庭菜園、併設施設での書道教室や音楽教室への参加など、利用者一人ひとりが活躍できる場面をつくり、楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族と一緒に墓参りや地域の敬老会などに参加して頂いている。年中行事で花見やドライブに出かけている。	敷地内の散歩、ドライブ(桜見、御大師様参り)、法人の盆踊り等の行事に参加している。家族の協力を得て墓参り、選挙の投票、外食、自宅訪問、外泊、敬老会に参加するなど、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者自身の能力に応じてお金を持っていただいている。自販機でジュース購入するなどして頂いている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に定期的に手紙、ハガキを出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や電灯の明かりを入居者の意向を確認しながら調整している。季節(行事)に応じての飾り付けを行っている。	共用の空間は天窓から陽が差し込み、中庭の木々や季節の花(チューリップ)を眺めたり、テーブルに花を飾っているなど、季節感を感じることができる。台所からは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。壁には利用者の作品を飾り、温度や湿度などに配慮して、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いて一人なれる工夫をしたり、気の合う入居者同士を相席にしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた鏡台やダンス、ソファを持ってきていただき、落ち着ける空間作りの工夫をしている。家族写真を居室に飾っている。	居室はゆったりとして広く、使い慣れた布団、テレビ、整理ダンス、鏡台、位牌、人形、句集、ソファなどを持ち込み、自分でつくった俳句を短冊に書いて飾ったり、家族写真を飾ったり、洗面台には花を活けて、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人入居者の身体状況に応じて家具の配置して混乱しないようにしている。居室がわからない入居者の部屋には、大きく名前を書くなど工夫をしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム なでしこ

作成日：平成 27年 10月 23日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	自己評価及び外部評価を主に管理者及び計画作成担当者が作成しており全員で取り組めていない。	グループホーム職員全員で自己評価、外部評価の作成及び意義の理解と活用に取り組む。	○自己評価の内容を懷疑等で全員で話し合い作成する。 ○項目を意識して処遇に取り組む。	1年
2	35	応急手当や初期対応のマニュアル、研修は受けているが、事故発生時に全員が対応できるようにしたい。	事故発生時に職員全員が日頃から対応できるようにする。	○ミーティング等で火事発生時のシュミレーションを行う(年2回以外の訓練) ○誤嚥、窒息、意識障害などの緊急時を想定した場面の初期対応方法(病院の連絡方法)をぎゅおむの中で仮実施してみる。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。